

## 序文

みなさん、こんにちは！順天堂大学医学部附属浦安病院の救急診療科の近藤豊と申します。沖縄の島国で医者になって、以後、首都圏・海外に移動しながら、今の職場で楽しく仕事をさせていただいています。医療は本来どこでも普遍的なはずなのですが、地域や国によっても随分変わるんだなあと身に染みて感じています。

本書を手を取っているみなさんの多くは看護師の方だと思います。看護学校を卒業したばかりなのにもう現場に立たないといけない状況だったり、それなりに看護師をやってきたけど未だに急変対応に慣れずにいる方もいるのかなと思います。

一方で敗血症のケアは慣れているけど、“もっと良い対応ができるようになりたい！”と思っている方もいらっしゃるかもしれません。

私は大学を卒業して以来ずっと、救急診療に取り組んできましたが、そのなかでも多くの敗血症の患者さんの治療を担当して、日々悪戦苦闘してきました。敗血症は、いくら多くの敗血症患者さんの経験があっても、「余裕で治療やケアができます！」とは言い切れない疾患で、患者さんが急に具合が悪くなったりしないか、今でもドキドキすることもあります。

そのなかで、今の自分よりさらに敗血症に自信が持てるようになるように、本書を執筆しました。

本書は2021年4月から1年間『月刊ナーシング』において、“ナースのための敗血症講座”で連載していた内容をもとに、内容を大幅に追加し、さらにわかりやすくしたものです。

皆さんに、一般外来や病棟で急に発症した敗血症の患者さんが出た際に、少しでもより良いケアができるようになって欲しいとの思いで本書を書き上げました。

本書では敗血症の基本的な事項から、これだけは知っておいてもらいたい、という点まで幅広く書き尽くしました。

書籍の発刊の貴重な機会を与えて頂いた株式会社Gakkenの皆様、順天堂大学でお世話になっている医師・看護師・臨床工学技士・作業療法士・救急救命士・その他関係者の皆様、一緒にチームで敗血症研究をしてくれている大学院生をはじめとした皆様に厚く御礼申し上げます。

それではいよいよはじまります！

「よくわかる ナースのための敗血症講座」

順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科  
近藤 豊

## 推薦の序

『月刊ナーシング』に連載されていた“ナースのための敗血症講座”を元にした内容が、この度、待ちに待った一冊の書籍として刊行されました。

ナースのための敗血症講座は、『日本版敗血症診療ガイドライン2020』に基づいており、看護の視点で検査・診断・治療の過程がわかりやすく書かれています。観察・日常生活援助・家族ケアも細かく解説されているので、看護師が欲しい知識や情報が網羅されています。

外傷後・熱傷後・軟部組織感染症による敗血症のケアのポイントや、敗血症に気づきにくい小児、高齢者、外科手術後の患者など敗血症のサインが分かりやすい解説です。

従来のテキストによくある「医師が執筆するのはなんか難しそう…」「勉強した直後は理解したけど…臨床で上手く実践できない…」といった心配はありません。イラストで、イメージを深めて看護実践へつなげることができます。

医師が「これだけは、看護師さんに知っておいてほしい」という思いが込められており、敗血症のケアに接している看護師はもちろんのこと、在宅ケア・回復期・療養施設など、現場で頑張っているすべての看護師に読んでいただきたい一冊です。

順天堂大学医学部附属浦安病院 救命救急センター病棟師長  
佐久間文枝